

2019年度第1回豊岡市環境審議会 会議録

日時：2019年7月29日（月）午後1時30分～午後4時20分

会場：豊岡市役所本庁舎3階 会議室3-1

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、内海京子、太田垣秀典、岡崎典子、毛戸 勝、島崎邦雄
菅村定昌、寺田正文、中村 肇、橋本道江、山田博文

欠席した委員：日下部昌男、土川忠浩、友田達也

事務局：コウノトリ共生部 部長 水嶋弘三

コウノトリ共生部コウノトリ共生課

課長 宮下泰尚、係長 井上浩二、主事 戸田早苗

コウノトリ共生部農林水産課 農政係 主幹兼係長 山本隆之

コウノトリ共生部農林水産課 林務・水産係 主幹兼係長 久田 渉

市民生活部生活環境課 環境衛生係 主査 亀本英樹

環境経済部環境経済課 経済政策係 主幹兼係長 宇野友喜

1 開会（司会：宮下課長）

- ・会議の公開、会議概要の公表を確認
- ・配布資料の確認

2 辞令交付

- ・山田博文（社会教育委員）

3 あいさつ

- ・山室会長より挨拶
- ・水嶋部長より挨拶

4 自己紹介

5 協議（議長：山室会長）

【会長】次第に沿って進める。事務局から説明をお願いする。

【事務局】第2次環境基本計画に基づいた、最初の報告書を昨年度まとめていただいた。今年度も踏襲した形式で作成する。目標像①から⑩まで順番に審議いただきたい。環境報告書作成に向けて、今回を含め2回審議を行う。

【事務局】第2部「目標とする姿」への取組み状況について、前回までは和暦表記であったが、西暦表記に置き換えた。目標像ごとの変更点については、審議の進行に合わせて説明する。

【会長】今回の審議で、トピックスと評価案が妥当かどうかについて議論し、10月に予定している環境審議会最終決定する。事務局で作成した評価案と第2部の冊子を主に見ながら意見

をもらいたい。目標像に対して最終的に審議会として評価する必要がある。評価は、最も悪いものから順に「もっとがんばろう」「この調子で頑張ろう」「よく頑張りました」の三段階あり、評価理由の○(プラス評価)と▲(マイナス評価)の数で決まる。事務局案の評価理由が本当にこれでいいのか、別の理由の提案などを目標像について審議してほしい。

《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲より○が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い
- ・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

目標像①「手入れの行き届いた豊かな森がきれいな空気や水を育んでいます」

【事務局】トピックス案として「森林・林業を取り巻く情勢」について記載する予定としている。

【会長】評価理由は「○住宅へのペレットストーブや薪ストーブの設置が広がっている。」(根拠：グラフ「木質バイオマス利用機器設置補助件数」)、「▲バイオマス発電所への間伐材提供が減少している。」(根拠：グラフ「間伐材提供量(朝来バイオマス発電所)」)、「▲間伐材を利用したペレットの販売量が伸び悩んでいる。」(根拠：グラフ「豊岡産ペレット販売量」)の三つ。○一つと▲二つの評価理由が提案されており、「もっとがんばろう」という評価になっている。この評価が妥当かどうか、グラフ等を参照して審議をお願いしたい。

【委員】バイオマス発電所へ間伐材の提供が減少している理由は何か。

【委員】国の造林補助金が下がったことが影響している。補助金がなければ木を出しても赤字になるため、搬出量が減少した。今年度は額が戻ったため、搬出量・提供量も2017年度並みの搬出ができる予定。

【委員】外的要因で左右される指標は適切なものか。補助金が原因であれば環境を評価する指標としてはあまり適さないのでは。

【委員】除間伐の面積が減っているのも同じような理由か。

【委員】目標像の具体イメージで「スギやヒノキの林には広葉樹も植えられています」とあるが、スギやヒノキが悪いと誤解を受けると困る。スギやヒノキの林に広葉樹を植えないといけないわけではなく、スギやヒノキが保育できていないことが問題。広葉樹は根張りもよく、災害に強いイメージがあるが、針葉樹もきっちり保育して管理をすれば深く根を張る。管理の問題であって、針葉樹自体に問題があるわけではない。

【委員】学校等に設置しているペレットストーブは暖かくないから使えないと評価する声がある。公共施設のペレットストーブの維持費を予算化できず、ペレットストーブのメンテナンスがきちんとされていないため、ペレット製造者が有志でメンテナンスをしているような現状と聞いている。本体が海外製で、販売特約店でないとメンテナンスができないといった条件もあるようだ。メンテナンスについてどう考えているのか。市の施設にペレットストーブがあるが、メンテナンスができていないので評価が下がってきているということであれば何か手立てが必要ではないか。

【事務局】公共施設に338台ほどペレットストーブを設置しているが、メンテナンスしていないわけではない。3年毎に保守点検や補修ができるように予算確保して、計画的に更新し、または

使用中に不具合が生じた場合は修繕対応している。

【委員】メンテナンスはできているが、ペレット販売量は減っているということか。

【委員】ペレットの価格が下がればペレットストーブが広がるという考えだったが結果的に価格が思ったほど下がらず伸び悩んでいる。

【委員】北但東部森林組合の子会社、豊岡ペレットが作っているペレットは、ボイラー用とストーブ用がある。それぞれ配合を変えて作っている。去年の実績では、ストーブ用が102t、ボイラー用が186tとボイラー用の方が多い。ボイラー用は市内の温浴施設や老人ホームで使っている。公共施設のペレットストーブより、温浴施設のペレットボイラーが使われていないことの方が影響が大きい。

【委員】今のグラフはボイラー用とストーブ用を合わせた販売量ということか。

【委員】そのとおり。分けて考えた方がいいかもしれない。

【委員】市はボイラー用とストーブ用のどちらを推進したいと考えているか。

【事務局】どちらも推進したい。

【委員】豊岡ペレットがペレット事業から撤退する理由を教えてください。

【委員】豊岡ペレットは平成23年の秋からペレット製造を開始して8年が経過する。スタート時点から赤字であった。赤字になる理由はたくさんあるが、一つは価格。豊岡市のバイオマスタウン構想として、市の山から出た間伐材を原料にすると単価が高くなる。灯油やガスと比較すると価格で太刀打ちできない。灯油が安値で安定しているので、ペレット消費量の増加が見込めなくなった。特に大口の需要が見込める市内の温泉施設は、ペレットを使えば使うほど経営が厳しくなる。もう一つは、設備の耐用年数8年を迎えて頻繁に故障する。今度故障すると多額の修繕費がかかる。木質バイオマス事業の軸足を、ペレットの生産・消費からバイオマス発電所での消費・発電にシフトチェンジした。ペレット事業も、これまでの製造に使った木材量を間伐面積にすると500haくらいになる。ペレット製造事業によって500haの健全な森づくりができたと考えられるため、施設の老朽化も考慮して、一つの区切りと判断した。

【事務局】市内のペレットストーブやペレットボイラーで使用するペレットについては、豊岡ペレットがペレット製造をやめるということで、来年度以降ペレットをどう調達するかを森林組合も含めて関係機関と調整している。

【委員】トピックスの内容で、豊岡ペレットの撤退について触れることは可能か。

【委員】トピックスは、森林環境譲与税や森林経営管理制度が創設されることの方が大事だと思う。ペレット事業のことを書くならば、市としての木質バイオマス事業の軸足を、これまでのペレットの生産から朝来バイオマス発電所への木材の供給事業に転換させていくことで、健全な森づくりを安定的にやっていくという方がいいと思う。

【会長】10月の審議会でもトピックスの内容を議論したい。

【委員】森林組合長から、次の世代が山の境界が分からず管理できない、森林組合を続けられないと困っていて、他にも同じようなところはたくさんあると聞いた。さまざまところで起こっているなら大きな問題。何かデータとして出せるようなものはあるか。

【委員】生産森林組合のことだと思う。竹野・豊岡・出石・但東にある。以前は集落と生産森林組合

が一体のもので、生産森林組合で山を持ち、木材を売って収益をあげたが、近年は施業しなくなった。最近、生産森林組合を地縁団体に変える傾向がある。日高は合併前から区で管理している。区に法人格はないので、豊岡市長が財産管理者となっている。実際は、区が山を所有する契約を交わしている。

【委員】評価の理由で、ペレットストーブやペレット販売量が評価の基準になっている。ペレットをこれだけ作ったことで、500haの健全な森ができたというところまで書けないか。

【委員】朝来バイオマス発電所への間伐材提供は、このグラフを見ると後退しているように見えるが、話を聞くと外的要因であるため、これを指標とするのはどうなのか。データも大事だが、数量の増減だけでなくもっと踏み込んだコメントにした方がいい。

【委員】所有者が分からず手を出せない山がたくさんあって大きな問題になっていることを触れたほうがいい。大きな障害がありながら、これだけのことをしているということを知ってもらいたい。

【会長】今日の議論を踏まえ、評価指標と評価資料、コメントも追加して、10月の審議会で再度評価をお願いしたい。追加データなどの提案があればお願いしたい。

【委員】ペレット製造によって健全な山が500ha整備できたことは大事なことだ。ペレット製造からバイオマス発電所への供給にシフトチェンジする一方で、市もペレットストーブをもっと普及させようとしているので、「取り組みの結果、豊かな森が完成しました」というのはどうか。

【委員】積極的な評価はありがたい。ペレットと朝来バイオマス発電所のところだけ書き方を検討してもらいたい。また、山の所有者が分からないという問題点は、森林環境譲与税、森林経営管理制度で解決しようという動きがある。

目標像②「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」

【事務局】トピックスは神鍋溶岩流ウォーキングについて記載を予定している。

【会長】評価理由は「○ラムあるきが登山イベントとして浸透している。」(根拠：グラフ「ラムあるき登山参加者数」)、「○シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6500頭を達成している。」(根拠：グラフ『「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況』)、「▲有害獣の駆除や防護柵の設置、緩衝地帯の整備は進んでいるが、農林業被害額は増加している。」(根拠：指標(1)有害鳥獣対策)の三つ。

【委員】防護柵の設置が進んでいる一方で農林業獣被害額は増えている、というのは何か理由はあるか。

【事務局】農業被害額については、昨年の調査までは順調に右肩下がりだったが、今年2月の調査で少し上がる結果となった。農家へのアンケート結果からの数字であり、撲滅大作戦で順調に駆除しているシカの他に、アライグマやヌートリア、タヌキなど他の小動物の被害も報告されている。これまで、シカ対策という形でワイヤーメッシュや電気柵で防除しているが、小動物に対してはなかなか対処ができていないので、被害額が増加したと考える。

【委員】シカ年間捕獲数の目標 6500頭という数字に根拠はあるのか。

【事務局】過去の捕獲状況から目標数を設定している。

- 【委員】城崎に住んでいるが、個人的にシカが減っている実感はない。相変わらず夜中に目の前を10頭くらい走って山の中へ逃げていくし、週に2～3回は自宅玄関前にシカが下りてくる。シカが食べてしまうため庭木ができない。防護していない花壇はあつという間に芝刈り機で刈ったようになる。また、クマの目撃情報が増えているのも気になる。
- 【事務局】頑張ってシカを捕獲しているが6500頭で追いついているのかということと分からない。マンパワーの問題もあるため、捕獲と防除を併せて進めていきたい。
- 【委員】バッファゾーン整備については、森林組合が山の生育状況のデータを持っている。監視カメラを設置して調査したデータもある。バッファゾーンを整備したことでどう変わったか、豊かになったか一つの指標にしたらどうか。
- 【委員】但東の自宅の家庭菜園もシカ、イノシシ、サルの被害を受けている。サルはスイカもきれいに食べる。いくら防護柵や網を設置してもサルには負ける。小動物の餌みたいなものもあるが、全然獲れていない。家庭菜園はエサを作っているような気がして作るのがつらい。
- 【委員】農業被害のアンケートは、農会の調査のことか。
- 【事務局】そのとおり。県と市で行っている。
- 【委員】山奥から人がたくさん住んでいる方にだんだん被害が拡大してきた。特に農業被害は、山よりも家がたくさん密集している近くの被害が大きくなってきたということが原因にあるのではないか。
- 【委員】それは感じる。山際から放棄田が増えているため、食べるものが一切ない。
- 【委員】大分県はジビエマップを作成している。これが解決策になるとは思わないが、公表をしなくてもどこにどんなお店があるか調べて把握しておいたほうがいい。先ほどの農業被害は商売している人の被害額になる。生きがいを奪っているから生存余命を短くしている。外に出ないから体も動かさないし心の健康も奪われるということの方が深刻だ。
- 【会長】今までの意見をグラフのコメント欄に加筆してください。

目標像③「使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています」

- 【事務局】トピックスでコウノトリ育む農法に取り組んでいる生産者が、どういった思いで農業に取り組んでいるかについて触れたい。
- 【会長】評価理由は「○環境創造型農業の作付面積は引き続き増加している。」(根拠：グラフ「環境創造型農業作付面積」)「○冬期湛水を行う水田が増えている。」(根拠：グラフ「冬期湛水実施面積」)「○平成28年度から、コウノトリ育むお米が、学校給食で毎日(5日/週)使用されている。」(根拠：(3)学校給食への利用)「○集落営農が増えて、農業スクールの卒業生が豊岡で就農するなど、持続可能な農業の担い手が増えつつある。」(根拠：グラフ「農業スクール研修生」)の四つ。
- 【委員】学校給食で豊岡産野菜利用率のグラフが30%にラインがあるが、何の基準か教えてほしい。目標値があるならそのラインを出すとかもっと具体的な指標があったほうがいいのか。
- 【事務局】農林水産省の第3次食育推進基本計画で目標となっている地場産物を使用する割合が30%となっている。
- 【委員】これは農林水産省の目標値で、地産地消とは関係ないわけか。

- 【事務局】 地場産物なので地産地消ではあるが、豊岡市が独自で定めた数値ではない。
- 【委員】 「豊岡産野菜利用率」という項目だから市の目標が 30%であると理解していたが、そうではないということか。
- 【委員】 国の目標が 30%なので、昨年度の審議会の意見に国と同じ目標でなく、もっと高い目標設定したらどうかと提案した。
- 【委員】 せっかく豊岡産野菜利用率という大きな項目があるのだから、豊岡市独自の目標が欲しい。その目標を審議会や農業関係の方で決めて、目標をこうしますということならいいが、そのラインが農林水産省の計画の 30%というのは少し寂しい。以前の会議で、学校給食に使う野菜は数や大きさを揃える必要があり、時期によって豊岡産野菜の利用は難しいという話がなかったか。
- 【委員】 先日、出石給食センターで説明を聞いた。お米は週 5 回コウノトリ米で、野菜もできるだけ豊岡産を使いたいと言われていた。時期的に揃うかどうかの話もあるのだと思う。子どもたちが学校で作った野菜を給食にするのは難しいが、自分たちで調理して食べさせる取組みや、生産者から寄付してもらった野菜を使って給食を作ったりもしているという説明を受けた。すごく努力はしていると思う。
- 【委員】 そういった事例も載せたらいいと思う。
- 【事務局】 国の指導もあるが、給食センターもできるだけ地場産品を使いたいという思いがある。だが、数や時期の問題もあって数値としては表れにくい。豊岡・日高・出石の三つ給食センターがあるため、それぞれ取組みの仕方は少し違うが、特に日高と出石では、JA が窓口になって生産者との取組みをしたり、八代オクラ(日高地域)、シルクコーン(但東地域) など地域の野菜を給食に出してもらうこともある。そういった取組みを給食センターだけで、「生産者から野菜をいただきました」ということで周知している。
- 【委員】 せっかく豊岡市には一生懸命頑張っている生産者がいるのだから、後押しするためにも、国の目標に対して豊岡市は高い目標を掲げた方がいい。
- 【委員】 コウノトリ米を週 5 回使っているというところで甘んじている。石川県羽咋市では、学校給食の食材が全部地域のもを使っていると新聞に出ていた。コウノトリを中心に豊かな自然環境を作る他に類を見ない地域なので、豊岡市の課題として目標を掲げてもらい、作る側としても奮い立つ仕組みが欲しい。
- 【委員】 時期によってとれる野菜が違うなら、それに合わせたメニューもあっていいと思う。確かに価格も大事なことだが、それを踏まえてどうやって学校給食にだせるかが大事だと思う。学校給食は非常に大事な部分だと思うので国の目標ではなく豊岡市の高い目標を作ってもらえば、市内の農家もこの野菜をこの時期に作ってみようという人もでてくると思う。
- 【事務局】 昨年度も第 6 部環境審議会の意見として、30%より高い目標を設定することを提案いただいているので、このことも担当課へ再度伝えつつ、豊岡市独自の目標の有無を確認したい。目標設定されてなければ、改めて進言という形で記載したい。
- 【委員】 第 5 部環境審議会の意見の反映状況で、給食の担当課である教育総務課から学校給食でコウノトリ米を週 5 回使っていることについて返答はあったが、野菜利用率の目標を掲げるということについては、回答がなかったということか。

【事務局】回答がなかったわけではなく、そもそも野菜の利用率のことは今回の照会内容に入っていない。第5部について、これまでは前年に作成した環境報告書に記載の意見について回答を貰っていたが、報告書作成と事業実施を同じ年度内に並行して行ったため、事業への反映がかなり難しい状況となった。いただいた意見を受けて1年間各課に取組んでもらうことが本来の形であるため、報告書作成年度の翌年度の事業に反映できたかの回答を貰うように照会のタイミングをずらしたい。そのため、2018年度環境報告書では、平成29年度(2017年度)報告書に記載の意見ではなく、平成28年度(2016年度)報告書に記載の意見について、平成29年度報告書と同じ回答になるところもあるが照会している。よって、昨年度の審議会で出た意見についての記載が来年度作成する2019年度環境報告書になる事をご了承いただきたい。

【委員】第5部の表紙のところに昨年度までと方針が変わったことが分かるように表記をしてほしい。

【委員】豊岡市は全国から見ると農業自給率は非常に高い。ほとんどの都道府県は20%程度で、よく頑張って25%。他の都道府県・市町村よりも豊岡市は学校給食の農業自給率が高い。そういう頑張っているところだからこそ、もっと高い目標を掲げてほしい。

【会長】議論を踏まえて、審議会の意見として提案してください。

目標像④「あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」

【事務局】主な指標(4)子どもたちの体験活動等の「子どもの野生復帰大作戦参加者数」のグラフが、2018年度からプログラム構成が大きく変わったことを受けて、グラフの見せ方を変更している。前回まではプログラムごとに分けていたが、対象者(子ども、指導者)で分けてグラフにした。(5)清掃活動については、実際にどのような活動が行われているかを、当課が把握しているものに限り主な活動として、清掃場所・活動主体・活動時期を追加した。トピックスは、ボート日本代表が豊岡での合宿の際に城崎中学校ボート部を指導したことについて記載を予定している。

【会長】評価理由は「○川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。」(根拠:(5)清掃活動)「○子どもの野生復帰大作戦が自然体験イベントとして浸透している。」(根拠:グラフ「子どもの野生復帰大作戦参加者数」)、「▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。」(データはないが市民の声)、「▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。」(根拠:(2)不法投棄対策)の三つ。川清掃、浜清掃は今回の報告書から新たに追加したデータ。浜清掃は気比の浜や田結の浜で行われているが、他に定期的に清掃活動をしている団体があれば教えてほしい。

【委員】但馬漁協津居山支所の婦人部が、年に一回は港の清掃をしていると思う。田結や気比の高年クラブも年に4~5回、浜の雑草を刈っている。

【委員】「河川の稚魚・貝放流補助金」の実施主体は兵庫県内水面漁協か但馬漁協か。

【事務局】確認する。

【委員】子どもの野生復帰大作戦の説明に「子どもコースは自然の中で魚や昆虫など生きものの暮らしや火おこし、登山など生きるための知恵を楽しく学びます」とあるが、2018年度からの新

しいプログラムではそういう活動はしていない。

【委員】事業主体が変わった。それまでは豊岡の子どもを自然の中で生きものと触れ合わせて育てていこうとしていたが、今は山、川、海で活動をしているが遊びが主体になっている。それも大事だと思うが本来の趣旨とは大きく変わっている。

目標像⑤「コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています」

【事務局】トピックスは昨年10月にエリア拡張されたラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」について記載を予定している。

【会長】評価理由は「○野外のコウノトリの個体数が増加している。」(根拠：グラフ「コウノトリ野外個体数」)、「○円山川自然再生事業により、湿地の改良・造成が行われボランティア等による湿地保全活動が継続されている。」(根拠：グラフ「国交省自然再生事業湿地整備面積」)、「▲外来種の駆除を進めているが著しい成果はでていない。」(データはないが市民意見)の三つ。

【委員】加陽湿地でフジバカマの再生を頑張っている。円山川の河川改修でフジバカマが失われるという状況で、代替の場所を作れなかったため仕方なく加陽湿地に似た場所を作ってもらい移植した。毎年勉強会も行っているのだから、そういう活動も載せられると思う。また水田の話であったかもしれないが、私の住んでいる国府地区は、夜中に歩いて周ってもホタルが一匹もいないくらい壊滅的な状況になっている。うまく自然再生ができていない場所でもどんな変化があるのか、量的には無理でも質的には大学院も研究しているので、そういう場所には自然があるけど、していない場所にはないということに記載してほしい。

【委員】先月の市広報「市長の徒然日記」で、「コウノトリが増えたからもういい」と思っている人が多い一方で、聞き取り調査を読むと昔は本当にどこにでも魚やドジョウがたくさんいたとある。「昔と比べると自然はまだ回復していない」と書かれていたのが印象的だった。このエリアのドジョウがどれくらいいるかのデータはあるか。

【委員】県立大大学院が調べている。ただ、公表できるような大きなデータはないし、比較できる昔のデータもない。

【委員】昔のデータがなくても、近年魚が増えてきたというデータはないか。

【委員】まだそこまでデータが蓄積されていない。

【委員】ホタルは昨年大雨で流れてしまったからいないという話を聞いた。

【委員】流れたというのものもあるが、川がきれいになりすぎた。ゲンジボタルは川がきれいになりすぎても問題ないが、本当にきれいな水にホタルは住めない。川が汚れすぎてもホタルは減るし、川がきれいすぎてもカワニナが住めなくなりホタルも減る。適度に汚いくらいがいい。今、瀬戸内海で魚がとれないのも同じで、きれいになりすぎて栄養源がない。そこで、ため池の水を流すなどの工夫をしている。

目標像⑥「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています」

【事務局】トピックスは、前年度に引き続き県指定無形民俗文化財である轟の古代太鼓踊りの紹介を予定している。

【会長】評価理由は「○各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。」(根拠：表「各地区コ

コミュニティと主な交流行事))、「○地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成する学校が増えてきている。」(根拠：グラフ「地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数」)、「▲高齢化、少子化により、伝統行事の継続が難しくなっている。」(データはないが委員の実感)の三つ。目標像⑥は根拠となるデータの提示に苦労している。何か評価のためのデータ案があれば提案いただきたい。

【委員】旧公民館法のなかで公民館の活動をされていたが、豊岡市の新しい取組みでコミュニティが立ち上がり、コミュニティ政策課ができた。公民館の活動から抜け出せない地域とコミュニティの仕組みを利用して、ますます地域活動が活発になったところと多少温度差があるように感じる。取り組んで3年目であり、コミュニティは大変努力している。盛り上がっている所とそうでない所があるのが現実であり、そのあたりもデータとして出してはどうか。社会教育委員会でも一部取り上げさせてもらっているため、もしデータが必要であれば提供も可能。

【会長】ぜひお願いしたい。次回10月の審議会では26ページの表が新しいものになると思うので、改めて意見を伺う。

目標像⑦「子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」

【事務局】指標として、高校生等地域研究支援補助金の実績グラフを追加している。トピックスは、昨年度、兵庫県立大学大学院の学生がコウノトリ KIDS クラブに授業をしたことについて記載したい。

【会長】評価理由は「○コウノトリ KIDS クラブの会員が増加している。」(根拠：グラフ「コウノトリ KIDS クラブ会員数」)、「○自然環境保全に取り組む高校が増加している。」(根拠：グラフ「高校生等地域研究支援補助金」)、「○兵庫県立大学院と連携した市の取り組みが広がっている。」(根拠：トピックス)の三つある。

【委員】「出張！田んぼの学校」は、地域等が子どもと一緒にやる活動であるが、子どもの減少を理由に今まで実施していたところから、今年は実施しないという声をいくつか聴いている。そういったことがこれから増えていき、残念ながら今後は実施回数が増えることはあまりないと思う。

【委員】直接関係はないが、悲しい光景を見たから共有する。都会の学校が自然学校で神鍋を訪れ徒歩で移動中、20代女性の先生がアスファルト上のミミズを見て「うわ〜最悪。こんなの夢に見る」と言っていた。子どもたちは、世間話をしながらただ歩いているだけ。その三日後くらいに吹田市からきた子どもたちは、朝から4時間半ほどかけて自然についてしっかりと勉強して帰っていった。この差はいったい何なのかと感じて悲しかった。豊岡でするときも実質の伴った教育をしてあげたいと思った。

【委員】今、虫に触れない子どもたちがたくさんいる。孫を畑や田んぼで遊ばせようとする、すぐ虫よけスプレーをする。私が虫をつかまえてもギャーと悲鳴を上げ、さっきの話の先生と同じ。時代が変わったなと感じる。田んぼや川で遊ぶ機会がないと得体が知れなくて苦手になっていく。学校教育の中で何とかならないだろうか。

【委員】学校教育では難しい。なぜかという、理科で生物の授業をしようとする、一定期間飼わ

ないといけないなど準備が大変。技術もすごくいる。化学だと市販の教材で済む。極端な話、生きもの場合は、実物を触らずに教科書だけ読んでテストをすればいい点が取れる。そういう風に行われている。生きものについては、先生たちも面倒だからしないし、教員採用試験で虫に触れる人と制限するくらいのことをしないと変わらない。解剖の授業も今はない。

【委員】短大で講師をしていて、年に一回野草をてんぷらにしながら飯盒炊飯をしている。災害時に保育所は避難所になる場合もあるため、そういうときに物資を待つだけでなく動ける指導者になろうという観点。結構地元の学生が多いので、その時はやる気満々。雨が降ったらとてもがっかりしている。そういったところを伸ばせたらいいと思うが、残念ながら私一人しか指導者がいないため準備がとても大変。

【委員】そういった情報が少しでも共有できると、もしかしたらお手伝いできるかもしれない。例えば土曜チャレンジ学習もしているはずだが、ここで触れられないか。例えば三江地区は、自然とふれあう会を作られていると思う。土曜チャレンジで何か情報はないか。

【委員】土曜チャレンジは浸透してきており、指導者も新しい取組みをしている。予算も出ているので、さらに新しい取組みができたらと思っている。

【会長】次回までに土曜チャレンジでどのような取組みがされているかデータを出してほしい。

目標像⑧「市民みんなが、ごみの減量を実践し、1人当たりの排出量が徐々に減っています」

【事務局】トピックスは、クリーンパーク北但が環境教育と地域交流の一環で行っているイベントについて記載を予定している。

【会長】評価理由は「○クリーン但馬 10 万人大作戦の参加人数が増加している。」(根拠：グラフ『「クリーン但馬 10 万人大作戦」参加人数・ごみ回収量』)、「○古紙回収ボックスが増加している」(データはないが市民感覚)、「▲一人当たりの家庭から排出されるごみ量が微増している」(根拠：グラフ「市民一人当たりのごみ計画収集量」)の三つ。

【委員】ごみの分別収集は 20～30 年前と比べるとずいぶん進み、結果としてこういう数字になるのだと思う。ビン・カンのリユース、リサイクルはできていると思うが、ペットボトルは、分別・収集まではしているが、その先の処理はどうなっているのか。

【事務局】クリーンパーク北但でいったん集約し、ペットボトルは泉南市のリサイクル工場でプラスチックペレットにして、それを原材料に軍手やワイシャツ、カーペットなど化学繊維として使用している。もちろん質のいいものはペットボトルとしてリサイクルされている。

【委員】ペットボトルは海外に行かず、日本国内で完結しているのか。

【事務局】他の自治体がどうかは分からないが、少なくともクリーンパーク北但で回収している豊岡市、香美町、新温泉町のものは海外にはっていない。

【委員】農業用廃プラスチックの収集が年 1 回あるが、その最終処分はどういう方法で行われているのか。

【事務局】生活環境課では把握していない。農協が取りまとめて行っている。

【委員】森林組合は、専門業者に送っていた。

【委員】再利用できるものは少ないが、埋め立てるのか。

【委員】焼却していた。

【委員】塩化ビニールはダイオキシンがでるからよくないのではないか。

【事務局】設備が整っている焼却炉であれば燃やしても問題ない。

【委員】トピックスはペットボトルやプラスチックごみについて記載するのがいいと思う。特に国際的にも問題になっている。

【事務局】農業用廃プラスチックの件は、農協に確認をする。

【会長】提案があったとおり、トピックスをペットボトルや廃プラスチックの処理、行方などを担当課と協議して書いてほしい。

目標像⑨「市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています」

【事務局】市街地循環バス(コバス)のルートが2018年度から変わったことに伴い、2018年度のグラフから、ルート表記がAルートから北ルートに、Bルートから南ルートに変更した。その他は項目としての変更はない。トピックスについては、江野で小水力発電をしていることを紹介する予定。

【会長】評価理由は「○住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。」(根拠：グラフ「住宅用太陽光発電設置補助件数」)、「○メガソーラーによる発電が順調である。」(根拠：表「豊岡市所有大規模太陽光発電所」発電量)、「▲コバス利用者が減少している。」(根拠：グラフ「市街地循環バス(コバス)利用者数」)、「▲エコ事業所宣言をする事業所が増加していない。」の四つ。

【委員】最近高齢者の事故が多いが、高齢者の免許返納に伴う取組みとして、公共交通機関の割引以外に豊岡市でどんな取り組みをされているか。

【事務局】担当課に確認する。

【委員】太陽光発電の表は、単年度だが経年グラフにできないか。増減に関してはグラフの方が分かりやすい。

【事務局】グラフで記載する。

目標像⑩「環境を良くすることで経済が活性化され、交流も広がっています」

【事務局】「CSR活動による地域活性」という指標が新たに加わった。トピックスは、地域資源の利用かつブランド化の観点から「雪室そば」について記載を予定している。

【会長】評価理由は「○コウノトリ育むお米の輸出国が増加している。」(根拠：グラフ「コウノトリ育むお米出荷量」解説)、「○CSR活動に受け入れによる交流人口が増えた。」(「CSR活動による地域活性」中表)、「▲コウノトリ文化館の来館者数が減少している。」(根拠：グラフ「コウノトリ文化館来館者数(単年)」)の三つ。

【委員】コウノトリ育むお米の出荷量は減っているけど作付面積は増えているのはどうしてか。

【事務局】平成30年度は天候不順で収量が良くなかったのが原因と聞いている。

【委員】コウノトリ育むお米の輸出国が増えていることは分かるが、出荷量の輸出割合はどれくらいか。

【事務局】農林水産課に確認する。

【委員】CSR活動はどのようなものか。できるだけ日本語にしてほしい。ネットで調べてみたが、社会

貢献や会社の社会的義務だとかいろいろな意味が出てきて何を指すのか、ボランティアなのか、捉え方がわからない。

【事務局】企業の社会的責任において、自然環境保全などで地域貢献や社会貢献する活動を CSR 活動と呼んでいる。本文中に CSR 活動(企業の社会的責任)と記載があるが、分かりづらいということで、どこかに注釈をつけることを考える。

【委員】何年さかのぼれるかは分からないが、コウノトリ文化館に来ている外国人の数はデータを取っている。全体の来館者が減っていても、外国人来館者は増えている。

【委員】「コウノトリ 育むお米」出荷量のグラフのセンターは、JA たじまのセンターのことか。何のセンターの話かが分からないため、そのことを追加で説明してほしい。

【事務局】対応する。

【会長】目標像に関する審議は一通り終わったが、全体に関して何かあれば発言してください。

【委員】データやグラフなどの証拠を示して言わないといけないと思うが、そのためにはたくさんの資料を持つ必要がある。先日、博物館関係者の総会をした。その中で、「たくさん作品を寄贈したいという人がいるが、置く場所がない」という話がでた。もちろん他の施設も同様。使わなくなった学校など、どこか、いろいろな資料の保管場所として使わせてほしい。資料がなければ、口で言っているだけになるから証拠は置いておかないといけない。環境審議会では非常に厳しい意見が出ているが、新しい文化と言ってお芝居をするのは結構だが、昔の文化はどうしてくれるのかというのも含めて意見したい。それと、今年から国の森林環境税の貰う分が始まった。払う分はまだだが、それを自然環境の保護の方にも使わせてほしいというのが切実な思い。併せておそらく県民緑税の使途もきっと変わってくるだろうと思う。もう少し自然環境にやさしくしてほしいと思う。

【委員】目標像①のトピックスが「森林・林業を取り巻く情勢」となっているが、他のトピックスと比べると少し違和感がある。最近ドローンを使って山の測量をするというのが進んできている。また、毎年津居山と竹野を順番に大きな漁礁をコンクリートで沈めているが、山と海との連携ということで、山から間伐材を何十本か持ってきて、それを漁礁につけて沈める事業も、市の補助事業で行っている。他に合わせるなら、森林環境税とかの大きな問題よりも一般に伝わりやすい、ドローンを使った取り組みの方がトピックスとしてはいいと思う。

【委員】今年の出来事だから来年のトピックス案として話をする。神鍋に近畿で初めてマウンテンバイクのコースができた。作るときに一緒にコースを見に行き、事業者の方に話したのは、こういうものを作っていただいて地域に人がちゃんと住める状態を作っていないと、自然は守れないということ。人が生きていくためのいろんな産業があったり人間がいるから動物が近づいてこないのであって、人間が引けば野生動物が増えていく。いかに人が住んで食べていけるかという点で、マウンテンバイクコースに期待しているというのを書いてほしい。

【委員】田んぼのところで、農家数が減っていることは入れなくていいのかと思った。あまり関係ないかもしれないが、行動を変えることが大事なことだと思う。例えば、チャレンジデーという運動をする日があるが、あの日は皆さんすごく運動を頑張る。だから「省エネの日」とか、

「今日は待機電力を減らしましょう！」みたいな日を作るなど、そういう投げかけをいろんなところでしてはどうか。防災無線の放送でもいいので、実際に市民が活動をしてもしなくても、「今日は〇〇の日です」と、潜在意識に埋め込むような投げかけをして、みんなが行動を少しずつでも変えていかないといけない。たくさんデータがあっても、ちょっとずれたデータしかないようなことが続いてしまうと思うので、まずはみんなが行動を変えていけるような投げかけをしていって、そこからデータになってきて、変わってくるのではないかと。長期的な展望も踏まえて考えていかないといけないところがあるのではないかと思う。

【会長】今伺った意見を参考にしてデータの組み換えやトピックスなど、第6部審議会としての意見も提示したいと思うので、次回審議の方をよろしくお願ひしたい。以上で協議を終わる。

6 事務連絡

7 閉会

・雀部副会長あいさつ